

甲第五十七號

一金五拾四圓

右十四年度六郡役所出張所ニ屬スル備荒儲蓄金爲
換方給料トシテ該年度備荒儲蓄金ヨリ支給ノ儀本
年通常縣會ニ於テ議決認可候條此旨布達候事

明治十五年四月廿四日

千葉縣令船越 衛

千葉縣

甲第五十八號

東京府外五縣聯合共進會開設ノ儀甲第四十五號ヲ以テ及布達候條別紙規則ニ照準出品可致此旨布達候事

但本文規則第十二條出品目錄及申告書差出期限ノ義ハ調査ノ都合モ有之ニ付出品目錄ハ本年十一月一日迄ニ申告書ハ十二月一日迄ニ所轄郡役所へ可差出事

明治十五年四月二十四日

千葉縣令船越 衛

千葉縣

米麥大豆茶種聯茶聯合共進會規則

米麥大豆茶種籐茶聯合共進會規則

第一章 總則

第一條

米麥大豆茶種籐茶共進會ハ東京神奈川群馬栃木千葉埼玉ノ一府五縣聯合レ左ノ目的ヲ以テ輪次開會スルモノトス

但目的ヲ達スルハ本會開會中或ハ集談會ヲ便宜開設スルモノトス

目的

- 一 選種方ノ
- 一 培養方ノ
- 一 製造方ノ

三

千葉縣

- 一 收穫ノ
- 一 貯藏方ノ
- 一 害虫豫防ノ

第二條

本會ハ明治十六年二月十五日ヨリ日數四十日間埼玉縣下武藏國北足立郡浦和町ニ於テ開設スルモノトス

第三條

本會ニ出品スルモノハ本籍寄留ヲ論セス聯合府縣下住居ノモノニテ該植物ヲ耕作スル作主ノ地主小作ニ非レハ出品ヲ許サス

第四條

本會ノ出品ハ水田米陸田米大麥小麥裸麥大豆茶種
綿製茶トス

但出品スルモノハ同種ノ莖幹等ヲ添テ出品スヘ
シ

第五條

本會ハ十五年ノ產出品ニ非ラサレハ出陳スルヲ得
ス

但參考ノ爲十四年ノ產出品ヲ添テ出陳スルハ妨
ケナレト雖モ必ス其理由ヲ説明書ニ掲クヘシ

第六條

本會ニ出品スル水米ハ三反歩以上陸米大麥小麥裸
麥大豆茶種ハ二反歩以上綿ハ一反歩以上茶ハ六貫

四 千葉縣

目以上ヲ收穫スル作主ニ非レハ出品スルヲ得ス

第七條

出品ハ毎種之ヲ審査シ其優等ナルモノハ褒賞ヲ授
與スヘシ

第八條

褒賞ハ左ノ等級ニヨリ授與スルモノトス

第一區 米 粳 糯

一等賞

二等賞

三等賞

四等賞

五等賞

六等賞

第二區

麥

大麥小麥裸麥

一等賞

二等賞

三等賞

四等賞

五等賞

六等賞

第三區

菽

大豆

一等賞

二等賞

三等賞

五

千葉縣

四等賞

五等賞

六等賞

第四區

茶種

一等賞

二等賞

三等賞

四等賞

五等賞

六等賞

第五區

綿

一等賞

- 二等賞
 - 三等賞
 - 四等賞
 - 五等賞
 - 六等賞
- 第六區 茶
- 一等賞
 - 二等賞
 - 三等賞
 - 四等賞
 - 五等賞
 - 六等賞

六 千葉縣

第九條

一人ニテ每區へ出品スルモノハ每區ニテ優等ニ位
 スルキハ每區適當ノ褒賞ヲ與フヘシ且一人ニテ一
 區内へ二三品ヲ出スハ妨ケナレト雖モ褒賞ハ其中
 ノ高等品ニ限リ附與スヘシ

第十條

米麥豆茶種等各一升總製茶ハ各種一斤則チ百六十
 目宛茶ハ別ニ四半斤審出品スヘシ
 但米麥大豆茶種總ハ布袋ニ入レ製茶ハ香味ヲ變
 セサル様鈍葉罐若クハ箱詰等充分手當スヘシ又
 莖幹ハ板及ヒ竹ノ類ヲ以相狹ミ途中損傷ノ患ナ
 キヨウ荷造スヘシ

第十一條

本會ハ各自平常ノ勤勉ヨリ現出スル結果ヲ比較シテ其優劣ヲ判定スルモノナレハ該會ニ供スル爲メ故ラニ精良ノ品ヲ撰擇或ハ他人ノ製作品ヲ請求出陳スルヲ得ス故ニ製作者ト出品者其人ヲ異ニスベカラス

但詐偽ノ所爲アルモノハ其出品ヲ斥ケ陳列ヲ許サス

第十二條

出品者ハ出品目錄及申告書各二通ヲ作り所轄郡役所ニ差出スヘシ郡役所ニ於テハ之ヲ調査シ其誤謬ナキヲ確認シテ後出品目錄明治十五年十一月廿五

七

千葉縣

日迄ニ申告書ハ十二月二十日迄ニ管轄廳ヲ經テ本會事務所へ差出スヘシ

但本條ノ期限ヲ過キ出品スルモノハ審査セサルヘシ

第十三條

場内整頓費及陳列一切ノ費用ヲ除クノ外出品往返ト運搬費及出品人ノ旅費等ハ自費タルヘシ

第十四條

出品ハ本會ニ於テ充分保護ヲ加フト雖モ盜火難風雷地震等ノ場合ニ生スル損害ハ總テ出品人ノ損失タルヘシ

第十五條

出品ハ十六年二月一日迄ニ本會事務所へ到達ノ見
込ヲ立テ運送スヘシ然ル上ハ出品人或ハ代理人ノ
出場迄ハ荷造ノ儘預リ置クヘシ

但シ陳列ヲ本會事務所ニ依託セント欲スルモノ
ハ荷物送狀ニ朱ヲ以テ依託ノ二字ヲ記載スヘシ

第十六條

場内取締一切ノ事務ハ聯合府縣事務掛ノ負擔スル
所ナルヲ以テ出品人其他場内ニ出入スル者ハ總ヲ
同掛ノ指揮ニ違背スルヲ得ス

第十七條

出品人ハ成ヘク出場スヘシ若シ事故アルモノハ代
理人又ハ甲乙聯合シテ總代人ヲ出スモ妨ケナシト

八 千葉縣

雖モ成丈該品ノ解説ヲ爲シ得ルモノヲ擇フヘシ

第十八條

開會中出品賣買ノ條約ヲ爲スハ勝手タルヘシト雖
モ閉場後ニ非レハ搬出スルヲ得ス

但賣約取扱ハ本會事務掛ヲシテ管理セシムヘシ

第二章 審査ノ部

第十九條

審査員ヲ設ケル左ノ如シ

審査監長

審査部長

審査掛

第二十條

審査監長ハ聯合府知事縣令協議ノ上書記官ノ内之ニ任ス

但監長ハ農商務省ヨリ出張ヲ請フテモアルヘシ

第二十一條

審査部長ハ聯合府知事縣令審査監長ト協議ノ上聯合府縣屬官中ヨリ撰定シ農商務卿ニ報告スルモノトス

但聯合府縣中部長適任ヲ得サル場合ニ於テハ農商務省ヨリ出張ヲ請フモノトス

第二十二條

審査掛ハ審査監長審査部長協議ノ上聯合府縣人民中ヨリ撰定府知事縣令ニ具申シ知事令ハ之ヲ農商

九

千葉縣

務卿ニ報告スルモノトス

第二十三條

審査掛ハ各擔當ノ物品ヲ査閲シ每品其優劣ヲ審査シ之カ附點表ヲ作り審査部長ニ出スモノトス

但審査掛ニ撰マレタルモノノ出品ハ本人其審査ニ關スルヲ得ス

第二十四條

審査部長ハ部内ニ關スル褒賞ノ等級ヲ提案シ審査監長ニ出ス監長ハ之ヲ聯合府知事縣令ト議判シ以テ農商務卿ニ報告スルモノトス

第二十五條

前條ノ場合ニ於テ其考案同數ナル片ハ府知事縣令

審査監長之ヲ判決スヘレ然リト雖モ農商務卿ニ於
 テ其當ヲ得スト見認メラルハ、キハ之ヲ再査ニ附ス
 丁アルヘレ

第二十六條

褒賞ノ等級ハ左ノ目ニ基キ之ニ定ムヘシ

穀菽茶種

- 一 品質ノ良美
- 一 培養ノ周到
- 一 收穫ノ多敷
- 一 收穫ノ方法
- 一 貯藏ノ方法
- 一 發明
- 一 功勞

繭

- 一 收穫ノ方法
- 一 培養ノ周到

十 千葉縣

- 一 收穫ノ多敷
- 一 品質ノ良美
- 一 需用ノ適當
- 一 發明
- 一 功勞

製茶

- 一 培養ノ周到
- 一 收穫ノ多敷
- 一 製造ノ精巧
- 一 原質ノ良美
- 一 需用ノ適當
- 一 貯藏ノ完善
- 一 發明
- 一 功勞

第三章 會場ノ部

第二十七條

會場ハ午前九時ニ開テ午後四時ニ閉テ其間公衆ノ入觀ヲ許ス

但會場ノ都合ニ依リテ觀客ノ人員ヲ限リ又ハ臨時入觀ヲ止ムルコトアルヘシ

第二十八條

觀客ノ會場ニ入ルモノハ必ス通券ヲ所持スヘシ滿五歳以下ノ小兒ハ之ヲ要セス

但通券ハ入場ノ際必ス之ヲ守門者ニ示シ出場ノキ守門者之ヲ收入スヘシ

第二十九條

通券ヲ所持スル者ト雖モ野人醉客ノ如キ妨害者ト見受クルキハ入場ヲ許サス或ハ會場ヨリ立去ラレキヘシ

第三十條

出品人又代理人ヘハ別ニ門簾一枚ヲ渡シ置クヘシ入場ノ際必ス之ヲ守門者ニ示スヘシ

但門簾ハ他人ヘ貸與スヘカラズ

第三十一條

手荷物傘杖等ヲ提携シ又ハ音類ヲ奏キテ入場スルヲ許サス

第三十二條

場内ニ於テ吸煙ヲ禁ス

第三十三條

観客ハ總テ出品人又ハ看護人ノ承諾ヲ得ルニアラ
サレハ禮ニ物品ニ觸ルヘヲ得ス

第四章 出品者心得

第三十四條

出品ヲ本會事務所へ宛送送シ陳列ヲ依頼セント欲
スルモノハ左ノ送狀ヲ雛形ノ通り相認ムヘシ
但品物運送費ハ悉皆出品人ヨリ仕拂決シテ先拂
ヲ以テ輸送スヘカラス

送り狀之事

依托 此二字ヲ朱書スルモノハ事務所へ依托スルノ証トス
此二字ナキモノハ出品人出揚マテ其儘預リ置クヘシ

付型

一或ハ二株

十二

千葉縣

一何麥	代價金何程	全何
一何大豆	代價金何程	全何
一茶種	代價金何程	全何
一蘭	代價金何程	全何

代價金何程

一茶

代價金何程

何百目

右ハ聯合共進會荷物書面ノ通り差送リ候條着ノ御預リ置(拙者)或ハ代理何ノ誰申出次第御渡有之度(則代理人連印差出)候也(代理者ナキハ連印ヲ要セス)但會場迄ノ運賃ハ拂濟

何府何國何郡何町何番地

何縣何國何郡何町何番地

何縣何國何郡何町何番地

何ノ誰印

何府何國何郡何町何番地

何縣何國何郡何町何番地

何ノ誰印

右代理人

何ノ誰印

崎玉縣下中山道浦和驛

十三

千葉縣

聯合共進會事務所御中

第三十五條

本會事務所ヘ向テ送致セル出品送狀ニ依托ノ二字記載シアルモノ到着スレハ包裝ヲ解キ陳列シ依托ノ二字ナキモノハ其儘預リ置出品人或ハ代理人申出次第之ヲ引渡スヘシ若シ運送中ニ損傷ノ兆外包ニ顯レシモノハ運送請負者ヘ戻シ置クヘシ

第三十六條

出品ハ種類ヲ區別ス故ニ開會以前ニ其割耐場所ニ陳列スルモノトス

但事故アリテ開會后出品スルモノハ事務掛ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十七條

出品ノ陳列ニ用フヘキ棚檯及容器ハ本會事務所之ヲ設ケ置付附スヘシ尤モ出品人自費ヲ以テ裝置セントスル者ハ其旨ヲ前以テ本會事務所ヘ申出指揮ヲ受テヘシ

第三十八條

陳列品ハ本會於テ一定ノ票札ヲ製シ其物名員數代價及出品人ノ圖所姓名ヲ記スヘシ

第三十九條

出品同種ニ付従前内外ノ博覽會又ハ共進會及モ他ノ事由ニテ褒賞ヲ得タルモノハ必ス褒狀ノ寫シ或ハ賞牌ノ模型又ハ寫圖ヲ附スヘシ

十四

千葉縣

第四十條

各出品ヲ製作スル處ノ機械其他近年改良發明ニ係ルモノ及會社或ハ組合申合規則等アルモノハ附屬出陳スヘシ

第四十一條

閉會後五日期限出品人或ハ代理人總代人ハ其品物ヲ場外ヘ搬出スヘシ

米 申 告 書 式

用紙ハ半紙ノ野紙ヲ用ヒ二通りヲ出スヘシ
書式中朱字ハ出品人ノ書入ヲナスノ略ヲ示ス
フモ妨ケナシ麥大小豆茶種籾等モ之ニ準スヘ

番 附 札 ト 記 ス 名	早 中 晚 稻 名 出	地 名	地 質	地 價	撰 種 法	播 種 方 法	種 代 ノ 作 方 及 播 種 ノ 法	植 付 ノ 期 及 方 法	整 地 及 保 護 方 法	施 肥 料	灌 水 ノ 期 及 其 器 械	成 熟 ノ 期 收 穫 ノ 手 續	地位及地價	耕作ノ反別	收穫ノ高	耕作反別ノ損益	麥實ノ有無	發 明	前書申告ノ件々相違無之候也	
																			明治 年 月 日	何 職 印
		新國町高町村字何々	粘土盛土又ハ砂地云々ノ別ニ配スヘシ		種ノ撰方乾方貯方交換等有無從來ノ慣法ヲ記スヘシ	種ノ撰方乾方貯方交換等有無從來ノ慣法ヲ記スヘシ	何月頃起返シ土塊ヲ碎キホヲ引何肥何程ヲ施シ一坪ニ付種何升何々ノ法ヲ以播種シ一反歩ニハ種何升ヲ要スルヲ記スヘシ	播種ヨリ幾日ヲ経テ何月何日頃凡何寸許ニ長シ何本ヲ一俵トシ一坪ニ付幾俵ヲ植付ク云々ヲ記スヘシ	種付前地盤ノ仕方人カ牛馬ノ別起返シノ淺深植付ヨリ收穫マテノ手ス方及雜草ヲ去ル度數肥料ヲ施ス期節等ヲ記スヘシ	骨粉干油粕人糞石灰堆積肥等ノ類施肥ノ數量及其用法ヲ記スヘシ	何月何日頃ヨリホヲ灌テ何月何日頃止ム又流水井水溜水ノ別成ハ溜水ニ器種用ユレハ其名ヲ記スヘシ	何月何日頃種ヲ拔キ花ヲ開キ何日頃實ヲ結ヒ何日頃刈入種付ヨリ刈取マテ日數凡何十日頃葉ニ掛ルカ地上一ニ乾カユカ又ハ換日ヲ經テ拔取リ及乾シ方等ヲ記ス	地位何等ニシテ地價何程ナルカ上中下二等ノ別ヲ記スヘシ又小作米田何石畑何石或ハ金何程等ヲモ記スヘシ	水米早中晚各種ヲ數種スレハ每一種ノ反別ヲ記シテ合計スヘシ陸米モ亦モ亦之ニ同	石數ヲ記シテ合計スヘシ代金モ每一種ヲ記シテ合計スヘシ陸米モ亦之ニ同且一反歩ニ付何石何斗此代金何程ヲ併セ記スヘシ	耕作反別之諸費用並ニ收穫石數ヲ代價ニ直シ差引損益ノ比例	無年何月何博覽會何共進會へ出品シ及何々ノ事由ヲ以テ何々ノ賞ヲ拜スル云々ヲ記スヘシ	熟地撰種肥料農具等ニ發明アラハ其事由ヲ記スヘシ	明治 年 月 日	何 職 印
<p>出品人</p> <p>埼玉縣下中山道浦和宿</p> <p>聯合共進會事務所御中</p>																				

十六 千葉縣

前書申告之通相違無之虞保証仕候也

何府下

何國何區何町何村何戸長

何 職 印

十七
千葉 某

製茶申告書式

用紙ハ半紙ノ野紙ヲ用ヒ二通りヲ出スヘシ
書式中朱字ハ出品人ノ書入ヲナスノ略ヲ示ス
フモ妨ケナシニ紅茶ハ麥潤揉器蒸ノ三科ヲ設
ケ記スヘシ

香附 附札ト同
 號 番 號
 稱 白鹿
 何國郡下何國郡村族籍
 姓名

產地 何國郡町村字何々何反、是ハ出品ノ作地ヲ云フ

地 質 山地カ平地カ野土カ農土カ礫土トカ赤土トカ以地底ハ粘土カ砂交リ等詳細ニ記スヘシ

摘採年度 播種前ケ年日ヨリ摘採シ今年何々年日ニナルト記スヘシ

耕耘施肥ノ度 春夏秋冬ノ内何ノ季節ニ耕耘シ何季節ニ何ノ肥ヲ施シ成ハ何ノ節ニ何カヲナス等詳細ニ記スヘシ

一反ノ肥料 何カヲ何量目何ヲ何量成ハ何カヲ何理シ何種其金額等ヲ詳記スヘシ

一反培養ノ人夫 年中培養ニ關スル人員及給金ヲ記スヘシ

一反生葉ノ收穫 一 播種何日何日ヨリ何日迄何量目其摘採金額程
 二 摘採モ前同詳細ニ記スヘシ

生葉ヲ蒸ス法 一回日方何十目ヲ時間何十分何々ト記スヘシ

焙爐ニ烘ル法 一回日方何百目ヲ火度ニシテ時間何十分何々ト記スヘシ

製茶入費 職工人員并給金及他種費金額ヲ詳記スヘシ

製茶ノ收穫 上等何量目中等何量目下等何量目ノ詳ヲ記スヘシ

貯藏方法 香味色澤ヲ損セシテ貯藏保藏セシメルノ方法ヲ詳記スヘシ

發 酵 餅乾栽培肥露ノ調理器具等ノ新ニ發明シ實地研究ノ事由ヲ詳記スヘシ

褒賞ノ有無 何年何月何賞會成ハ其賞額等ニ出品何々ノ事由ヲ以テ何カ賞ヲ授ケテ記スヘシ

功 勞 一村一郡若テハ數村郡或ハ全管内ニ波及セシメシ等區別別詳記スヘシ

前書申告ノ件々相違無之候也

年號月日

埼玉縣下中山道浦和宿

聯合共進會事務所

御中

右出品人 姓名印

十九 千葉縣